



はじめに（共創推進課長 向田より）



おにクルが開館する11月26日を市民の皆さんと楽しく過ごす日にするために、オープニングイベントの企画を市民の皆さんと一緒に作りあげていく実行委員会を立ち上げました。おにクルにはホール、子育て支援、図書館など様々な機能があります。来館する市民の皆さんにこれらの機能を見てもらい、楽しんでもらえたらいいと考えています。オープニングイベントの実行委員会は例えば文化祭実行委員のようなイメージで、皆さんがやりたいことを考え、企画し、いろいろなプログラムを皆さん自身で実施します。おにクルらしいオープニングイベントにしたいので、市も企画の調整に入りながら、実行委員の皆さんと一緒に当日の実施に向けて進めていければと考えています。

●参加者数

25 名

●プログラム

- ① はじめに
- ② オープニングイベントについて
- ③ 実行委員会について
- ④ 自己紹介
- ⑤ 部会対抗ジェスチャーゲーム
- ⑥ 意見交換・発表
- ⑦ おわりに

オープニングイベントについて（共創推進課主幹 山脇より）



「つぎのイロドリ」をコンセプトに、まちの未来、開館後をイメージして、おにクルの様々な機能が市民の生活を彩るという意味を込めています。午前中はテープカットなどの式典、14時ぐらいから市民企画のプログラムが始まるイメージです。市民企画のプログラムでは、普段の活動にチャレンジしてみたいことを加えたり、関係課や大学などとコラボレーションしておにクルらしさを表現したいと考えています。プログラムの企画運営、情報発信、会場案内などチームとして取り組むことが大切です。おにクル館内の可能なスペースに加え屋外や広場、市役所前の道路などでの開催を想定しています。

※全体スケジュールが変更になっていますが、上記は変更前のものです。

● 日 時 令和5年11月26日(日)
午後1時～5時

● イベント名 「つぎのイロドリ」

まちの未来、開館後

多彩なおにクル

「つぎのイロドリ」

多様な機能の連携や、多くの市民が関わりながら作り上げてきた「おにクル」をお披露目。異なる機能や活動がコラボしたイベントや、市民が企画、参加するプログラムなど、“おにクルらしさ”を表現した催しに。

実行委員会について

全体会は月1回、対面を基本に開催、間に行う各部会はオンラインでの開催を中心に考えています。プログラムコーディネート部会は当日にどこでどのようなプログラムを開催するのかを考えます。コンシェルジュ部会は受付やプログラムの案内、ツアーなどを企画、情報発信部会は市民目線でオープニングイベントの情報発信を企画、オープニングセレモニー部会は、市民参加型のテープカットなどを考えます。説明を聞き各自希望する部会にわかれしました。



部会対抗ジェスチャーゲーム

一人がジェスチャーでお題を表現、他のメンバーが想像しながらお題を当てるゲームです。お題は「引っ越し」、「ドラえもん」、「2025大阪万博」の3回戦を正解率で競いました。2回戦目からは部会内で作戦会議、3回戦目は他の部会の成功の秘訣を全体で共有したところ、2回戦目は正解率がどのチームも上がり、3回戦目はお題が難しく苦戦しましたが85%の正解率を出した部会もありました。みんなで話し合い、工夫しながら進めていくことの大切さを体験しました。



意見交換

部会にわかれて話し合いを進めました。ここからは共創推進課の職員もテーブルに入り、オープニングイベントについてわからなかったことを確認したり、部会としてどのようなことをやりたいかについて話し合いました。庁内で組織された開館準備チームで企画が進んでいるプログラム（絵本クッキングなど）の紹介や、おにクルだけではなく、周辺で当日に開催が予定されているイベントの情報なども共有され、各部会で企画のアイデアを話し合いました。



プログラムコーディネート部会



「つぎのイロドリ」に込めた想いを聞き、当日は、市民によって色々なプログラムが広場や館内各階で開催されているフェスのような日をつくってほしいねという話をしました。一方で、館内の安全性など来館者が安心して見学できるようにすることも大切だという話にもなりました。

コンシェルジュ部会



コンシェルジュ機能を果たすために①市や他の部会に確認したいこと②受付としてやってみたいこと③プログラム案内の工夫案④館内ツアー企画案の4種類のアイデアが出ました。さらに、それぞれの企画案を具体的に考えるための学びの場「コンシェルジュ勉強会」を開催しようと盛り上がりました。

情報発信部会



情報発信部会としての取り組みは、集客のための情報発信ではなく、主催者の想いを届けたり、横のつながりをつくったりするような取り組みをしていきたいと話しました。また部会名が固いので「おにクルプレス」と名付け、ビジュアル面での展開も検討していくことになりました。

オープニングセレモニー部会



1歳から100歳まで一人ずつ市民を募集し、100人でテープカットを行うための準備について、テープの製作方法、フォーメーションやプログラム、BGM、記録など意見を出しました。また、シャボン玉を飛ばしたり、市で検討している企画との連携など具体的に話し合いました。